作文コンクール“Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2023年 最優秀賞作品「未来に向かって　教育・夢・感動」

大阪府立八尾翠翔高等学校2年　平賀　幸大さん

あれは私が小学校四年生の時だ。学年が上がるにつれ荒れていく学級に、ある先生が新しく赴任してきた。そこから私の夢が始まった。

私はその頃、夢もなく騒がしい空気に流されるように過ごしていた。だがK先生が来たことでその流れに終止符が打たれた。K先生は私のクラスの担任になり、最初に「今のままで楽しいか？」と言った。とたんに騒がしかった教室が静かになった。K先生は続けた。「楽しいことは良い事や。せやけど真面目に授業した後におもいっきりはじけてみいひんか。」と。すると教室のいたるところから「せやな。」と次々に聞こえてきた。私もそう思った。次の日からクラスのみんなが真面目に授業を受けるようになった。この時、私は先生の凄さを目の当たりにした。そして夢ができた。「こんな先生になってみたい。」と。今までにない初めての感覚だった。胸が熱くなった。

夏休みが始まる少し前にK先生は言った。「やっぱりメリハリある方が楽しいやろ。」と。この時私ははじめてメリハリという言葉を知った。そしてK先生は私たちと同じように授業をしっかりとし、遊ぶ時は全力で遊んでくれた。その姿に私は憧れ、尊敬をもするようになった。

夏休みが明け、運動会の練習が始まった。私たちはダンスをすることになったが、上手に踊ることができない人も出てきた。K先生は「踊るのが苦手な人見つけたら俺が進んで教える。でも限界があるからみんなも手伝ってくれへん？」と言った。その言葉に強い圧力は無かった。だが、みんなが進んで教えるようになった。今までの私たちでは考えられないほどで清々しいとまで思った。練習の甲斐もあり、運動会は大成功に終わった。

たった半年で荒れていた学級を正しい道に戻したK先生を、残りの半年で私はよく観察をした。K先生はいつでも笑顔だった。私はK先生に「何でいつもそんな楽しそうなん？」ときいた。すると「人を楽しませる時自分がしょーもない顔してたら楽しくないやろ？」とかえってきた。そして続ける。「学校って学ぶためだけの場所じゃないんやで。楽しむための場所でもあるんや。」と。これがK先生の理想の学校であると知った私は、K先生に「先生の理想マネしてもいい？」ときき、K先生はうなずき私は「ありがとう。」とその場を離れた。

私はこの先生をきっかけに教員を目指すようになった。そしてK先生の言ったメリハリという言葉を胸に今を過ごしている。そしてK先生の理想の学校は私の理想の学校として「学ぶため、楽しむための学校」を心に置いて、日々前進している。いつかあの先生に追いつけるように。

主催　大阪教育大学　府立高校教職コンソーシアム